

本願力

横浜別院だより



【報恩講】

賀正 輪番 坂田 智亮

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
横浜市港南区日野一丁目十一番

FAXTEL (045) 841-3434
(045) 841-3428
<http://www.yokohama-ootani.com>

二〇二〇年が始まった。光陰矢の如し、新しい年になったとは言え、何がどう変わることもないが、一年の早いこと早いこと、併せて、昨年もいろんな出来事・事件が頻発した。些細な個人的妄想にかられた怨念が、ささやかな夢に向かって確実に足りてきている人々の人生を奪ってしまう、また、社会でエリートとされてきた人が最愛の息子のいのちを・・・（裁判では動機を短絡的と？）これらは、他の存在を思いやることを見失い、自己をかたくなな世界に閉ざして、社会的にも決して許容されることのない事件である。これらは、どうも時代社会が生み出す暗く深い「悲しみ」といべきものではないだろうか。今年も又いろんな出来事の一つ一つに人間の営みの複雑な問題と課題を提起して、悲喜交々の年になるのだろうか。又、近年の知的科学技術の発展は目覚ましく注視すべきであり、価値観・人生観は変化し続け人間を変質させ、新たな人間模様を生み出しているのも間違いない。兎に角、世の中の変貌ぶりには目を奪われ驚かさされることの連続である。

れ今や通用しないものになったのであろうか。少子高齢化、人口減少社会へ突入、都市集中、地方過疎、格差拡大、伝統教団の檀信徒の減少現象、後継者不足、宗教離れ、無関心層の増大、墓じまいの風潮など明るい展望が描きだせない昨今、年末の週刊誌は「消滅するお寺・二十年後に三分の一」こんな特集まで飛び出している。今こそ真宗寺院の果たすべき存在意義を明確に回復すべき時であろう。

「仏教に対する関心はすごく高い。けれどもお寺に関心があるかといったら低い。お坊さんとお寺への支持が低くて仏教への支持が高い。ブリッジング機能を介在させる必要がある。檀家と寺だけの社会からこの僧侶の概念の視点を変えていかなければならない。」こんな指摘もある中、別院の将来についても教化センターを設立して本来の別院を目指しその途についたであろうか、休止することなく歩み続けているのか責任は重大である。

「駄目なことの一切を／時代のせいにはするな／わずかに光る尊嚴の放棄／自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかもの上」
(茨木のりこ)

真宗門徒の伝統とは、人間の欲望が生み出す便利で快適な生活空間一〇〇年人生を補完し浪費することではない。限りのある恵まれた人生に如来の本願を聞きぬくこと、そして、自らの拠って立つ使命を感得することであり、与えられた人生・境遇にのちの完結する道を訊ねることであろう。「貧しくとも楽しい我が家」に育ったと思う私などは、何故か南無阿弥陀仏の呼びかけが懐かしい。今年も多くの方々と仏法聴聞に励んでいかねばならないと思う年明けを迎えた。

人間が宗教心を持つものではありません。宗教心によって人間を創造するのであります。人間が信心するものではありません。信心が人間を創造するのであります。それを人間の救済というのであります。
(藤元正樹)

報恩講 徹修(十月十八日～二十日)
法話 里雄康意師(元宗務総長)

十月十八日から二十日にかけて、横浜別院において報恩講が徹修されました。報恩講は真宗門徒にとって、一年の中で最も大切な仏事です。勤行・法話等を通して宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲びながらも、この一年、自らが何をより処として生きてきたのか、その歩みを確認させていただく法要です。真宗寺院のみならず、その伝統は門徒家庭においても脈々と受け継がれ、勤められていきます。

横浜別院の報恩講では、勤行・法話だけではなく、親鸞聖人のご生涯とその遺徳を讃える『御伝鈔』を間近で拝聴することができます。また、参詣者が法話を聴いて、感じたことを語り合い、分らなかったことを講師・僧侶と共に確かめ合う「座談」。日頃の思いを語り、自身と向き合う「感話」。少し肩の力を抜いて参詣していただけるようにとコンサートや展示会などを開催する「夕べのつどい」。また、心身を静めて仏法に耳を傾けていただくために、



→ 御伝鈔拝読

← 里雄康意師



← 座談会の様子



姿勢や呼吸を整える「静坐」といった時間も設けており、内容も充実しています。ですから、三日間全日程参詣される方も多くいらっしやいます。

今年の法話講師には、真宗大谷派・元宗務総長の里雄康意師(大垣教区・第十七組緑林寺住職)をお迎えして、三日間にわたりお話をさせていただきました。また期間中、画家の小林憲明氏による絵画展「ダキシメルオモイ」を開催し、十八日の「夕べのつどい」では、小林氏に作品制作にまつわるお話を聴かせていただきました。

三日間、遠近各地から参詣がありました。なかには、寺院の聞法会において門徒さんと報恩講で勤まる「正信偈」の練習をしているので、一度、別院でしっかりとしたお勤めを聴いてもらいたいということ、団体で参詣された寺院もありました。一般寺院における報恩講とはまた違う雰囲気がありますし、ゆっくり門徒さんと接することが

できますので、寺院の教化活動の一端として別院の報恩講に団体で参詣していただくのも良いかと思えます。来年の報恩講に向けての歩みがもうすでに始まっています。(文責 企画広報部主任 鞠川卓史)

絵画展と報恩講夕べのつどい

親が子どもを抱しめている姿を、麻布に油絵で描くのが、小林憲明氏の作風です。研修室に並べられた作品の表情からは、温もりと安堵感が伝わってきます。それと同時に、そういう表情を人は一生のうちで何度できるのだろうか。この表情に辿り着くまでに、様々な背景があったのだろうと考えさせられました。

「ダキシメルオモイ」は、ご自身の家族を描いたことから生まれたそうです。その後、東日本大震災を機に全国の親子を取材し、描き始められました。現在まで、三九〇家



→ 小林憲明氏



→ 絵画展

【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうごき】

族を取材し、一八〇点描き終わっているとのことでした。今後も一〇〇〇家族目指して、このプロジェクトを続けていきたいとお話でした。小林氏は講演会のなかで、「抱きしめ合っている間には、オモイと願いの川が流れている。それに反するように生きる」と、生きづらくなる。流れに身を任せれば生きやすいのでは」と語られました。展示中も参詣者の皆さんと気さくにお話をされる小林氏の姿が特に印象的でした。

（文責 企画広報部主任鞠川卓史）

神奈川連合組門徒会総会（十月八日）
落語芸術協会 三遊亭右左喜 師匠
演目「親鸞聖人一代記」

神奈川連合組門徒会総会が別院で開催されました。神奈川四ヶ組の門徒会が持ち回りで担当し、今年も横浜組門徒会が担当でした。五十四名の出席があり、午後一時半から開会されました。真宗宗歌斉唱、横浜組吉原憲孝門徒会長挨拶、輪番挨拶、渡辺賢横浜組長挨拶があり、その後、議案が審議されました。第一議案二〇一八年度事業報告・決算報告



→ 総会の様子

第二議案二〇一九年事業計画・予算案について、質疑応答、採決が行なわれ、両議案とも承認されました。総会終了後に休憩を挟み、本堂において研修会が行なわれました。内容は、三遊亭右左喜師匠による新作落語「親鸞聖人一代記」でした。親鸞聖人の誕生からお話は始まり、出家得度、比叡山修行時代、六角堂参籠、法然上人との出遇いまでのお話でした。参加者は、時間を忘れるように話に引き込まれ、笑いもあり、真剣な場面もあり、それぞれが思い思いに親鸞聖人の生涯に触れました。親鸞聖人のお話で笑うというのとは何か変な感じでしたが、落語という古典芸能によって、また普段と違う側面の親鸞聖人に出遇えたように思いました。

← 三遊亭右左喜 師匠



来年は川崎組門徒会が担当となります。（文責家本）



「神奈川四ヶ組行事予定表」

《神奈川四ヶ組》

【横浜親鸞講座二〇一九】全七回

【日時】第四回 一月十一日（土）

第五回 二月十五日（土）

第六回 三月十四日（土）

第七回 四月十八日（土）

※全日程十四時より十六時まで

【講師】海法龍氏（横須賀市・長願寺住職）

【テーマ】人間とは何か「歎異抄」に聞く

【会場】崎陽軒ビルヨコハマジャスト

一号館八階（横浜駅よりすぐ）

【参加費】一回千円

《三浦組》

【二〇二〇年寺子屋】

【第一回】

【日時】二月三日（月）午後一時～

【講師】佐賀枝夏文師（大谷大学名誉教授）

【会場】西來寺（横須賀市不入斗町三三八）

【第二回】

【日時】三月四日（水）午後一時～

【講師】狐野秀存師（大谷専修学院院长）

【会場】来福寺（三浦市南下浦町上宮田）

【第三回】

【日時】四月八日（水）午後一時～

【講師】渡邊浩昌師（三重県西願寺前住職）

【会場】浄栄寺（横須賀市吉倉町一三三）

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 —

2020年1月～3月

～どなたもご自由にお参りください～

修正会

1月1日（水・祝）午前10時～
修正会とは、仏さまの前で身を正し、あらためて自分自身を見つめ直し、新たな年を始める法要です。ご縁の中に生きる自分の姿を、あらためて仏教の教えに照らしてみる機会にしてみませんか。

お屠蘇など軽食を振る舞います。

ぜひご参詣ください。

春季彼岸会法要 午後1時30分より
3月19日（木）・20日（金・祝）
【法話】近藤 龍麿 師

（岐阜教区第11組廣専寺住職）

別院声明儀式研修会のご案内

《2019年度第4回声明儀式研修会》

【日時】2月3日（月）

午前10時30分～午後4時

【講師】鈴木友好 師（本山堂衆）

【講題】報恩講における拝読文を中心にして

【参加費】1,000円 ※申し込みは別院まで。

仏華講習会のご案内

【日時】2月26日（水）

午前11時～午後3時30分

【講師】洲崎善範 師（大阪教区第13組即念寺住職、仏華研修会『ちいちの華』会員）

【内容】「真宗仏華入門」

【参加費】2,000円 ※申し込みは別院まで。

定例法話 午後1時30分より

- 1月9日（木）横浜組 願西寺 佐々木健太郎 師
- 2月9日（日）横浜組 長慶寺 中村良照 師
- 2月28日（金）別院 輪 番 坂田智亮 師

※1月28日の定例法話は休みです

横浜別院同朋の会

2月18日（火）午後1時30分より
参加者の皆様とテーマを決めて、座談を中心に行います。お気軽にご参加下さい。

※1月18日の同朋の会は休みです。

グリーフケアのつどいのご案内

- 【日時】2月8日（土）午後2時～
- 4月11日（土）午後2時～
- 6月13日（土）午後2時～

突然起きてくる人間の悲しみに共感を求めてグリーフケアを行なっています。

※参加費・申し込みは不要です。

詳細はチラシをご覧ください。

正信偈の会を始めます！

- 【日時】1月9日（木）10：30～12：00
- 2月9日（日）10：30～12：00
- 3月9日（月）10：30～12：00

正信偈（同朋奉讃式）のお稽古を行なっています。初心者歓迎！参加無料です。

※前日までに申し込みください。

詳細はチラシをご覧ください。

編集後記

二〇二〇年が始まりました。さて、今年はどうなるのかワクワクすることですね。正月三ヶ日が終わると、日常生活が始まり、また慌しく過ぎていくかと思われます。二〇一九年を振り返ると、新元号、台風による大災害、消費税増税等、たくさんのお出来事があったわけですが、その一方で、別院では一月に修正会、三月に春季彼岸会、五月に永代経法要、七月に盂蘭盆会、九月に秋季彼岸会、十月に報恩講と年間行事が勤まったわけです。多くの有縁の方々へ参詣していただきました。今年には東京オリンピックで大騒ぎとなりますが、別院では昨年と同じように年間行事が勤まりますので、世間が騒がしからうと相変わらずの参詣をお願ひします。（家本）

